

## 活動成果と今後の展開

公立千歳科学技術大学

石田 雪也

### 1 公立千歳科学技術大学の AP 事業

本事業では、高大接続システムでの学力観を意識したコンピテンシーベースのディプロマ・ポリシーを設計し、それに沿ったカリキュラム体系の再構築を図った。その上で、コンピテンシー養成のための学修支援体制の整備、ICT活用教育環境の構築、全学的な授業改善を一体的に行い、高大接続システム改革に資する教育システムの確立を目指した。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。(1) 理工学に関する基礎知識、(2) 言語リテラシー (3) 理工系に必要とされる基盤スキル、(4) 主体性・自律性、(5) チームとして活動する力、(6) メディアリテラシーを駆使して課題を発券する力、(7) 専門的知識、技術を活用する力。本稿では、公立千歳科学技術大学のAP事業の取組内容とその成果、今後の展開について述べる。

### 2 AP 事業の成果

公立千歳科学技術大学のAP事業の取組のポイントは、教職員全員参加によるAP事業推進(月1回の教授会時に質保証マップ開発、各領域WGおよび連携WGへの所属)、学外連携によるディプロマ・サプリメント開発(外部連携WG企業11社との連携、全卒業生対象の調査実施と継続)、学生の主体性育成を目指した教育改革(主体性を意識した質保証マップ構築、カリキュラム改革、教育の質保証を意識したシラバス改訂、授業外学修の推進強化)であった。

それぞれの具体的な最終成果目標とその達成度を下記の表に示す。教職員全員参加の全学的な取組を目指した結果、事業への取組参加率、CIST質保証マップの科目への適用率は100%となった。FD・SD参加率も目標には届かなかったものの3年間で80%を超える結果となった(平均87.3%)。

進路決定率については、初年次からのキャリア教育の実施ときめ細かなキャリア指導の体制とその効果により期間中毎年90%を超える結果となり、理工系分野への就職率は83.6%となった。卒業生調査に関しては、全卒業生へのアンケート調査の後、多くの卒業生が在籍する企業の人事担当者への協力依頼、研究室OBのネットワーク等の利用、さらには学内でのイベント参加時での直接依頼などにより、毎年回答者の積み増しを図ってきた結果、実施率については21.2%となった。

授業外学修時間については、12.7時間と4年間で数値を伸ばせたものの目標時には到達できなかった。また、GPAに関しても最終目標値には0.13ポイント届かない結果となった。

表 到達目標と実績

| 項目                | 目標   | 実績    | 項目             | 目標   | 実績   |
|-------------------|------|-------|----------------|------|------|
| 事業への取組参加率 (%)     | 100  | 100   | 進路決定率 (%)      | 90.0 | 90.0 |
| CIST質保証マップ適用率 (%) | 100  | 100   | 理工系分野への就職率 (%) | 80.0 | 83.6 |
| FD・SD参加率 (%)      | 100  | 90.8※ | 授業外学修時間/週 (時間) | 36.0 | 12.7 |
| 卒業生調査の実施率 (%)     | 20.0 | 21.2  | GPA平均値         | 2.60 | 2.47 |

### 3 今後の展開

前述の通り、授業外学修時間及びGPAについては到達目標に達成していない。今回の授業外学修時間の調査結果について教員・学生間で共有することで、主体的な学びを促す取組を続けていく。AP事業就業後もPDCAサイクルを継続させつつ、教育の質保証とあわせた主体的な学びへの促進の取組、全学的なFD活動、それらに伴うを継続していく予定である。